

久米島家畜セリ市場におけるDNA不一致問題に対する 理事長コメント

久米島家畜市場から出荷された子牛において、安福久とは異なるDNAが確認されたことについて、同家畜市場を運営しているJAおきなわとしては誠に遺憾であります。

今回の事態で久米島家畜市場から出荷される子牛の購買者の皆さんが不安感や不信感をもたれることについて、当JAでも心配しているところであり、子牛のセリ価格にも影響を与えることを懸念しております。

当JAとしては、生産農家の方々が安心して子牛の生産に取り組めるよう万全を期するとともに、購買者の方々が安心してセリに参加して頂くよう、沖縄県に対して人工授精師の授精業務に対する指導の徹底と、県内の全ての家畜人工授精師に対し、家畜増殖法に違反する事案がないか調査するよう要請する考えであります。

久米島家畜市場を運営している当JA久米島支店がDNA不一致の事態を把握していたにも関わらずセリの開催を続けていたのではないかと批判につきましては、率直にお詫びを申し上げます。

このことにつきましては、昨年6月にDNAの不一致が確認され、さらに9月、10月にも不一致が確認されましたが、いずれも授精師が異なっていたことから、人的ミスによる事故であると判断し、市場の開催を継続してきたところであります。

しかしながら、12月の不一致においては6月発生と同一の授精師であったことから疑問に思い、沖縄県家畜改良協会に報告したところでありますが、1月のセリ開催時点では事実関係が明確に把握できなかったため、久米島和牛改良組合と調整した上で、セリを開催したところであります。

なお、沖縄県畜産課が2月に同人のもとへ立ち入り検査を行ったところ、人工授精を行った際の台帳等の書類がないなどの不備が発覚したため、県中央家畜保健衛生所が同人に対し指導文書を交付するとともに、現在、同人が人工授精を行った子牛のDNAの鑑定を行っているとのことです。

その結果が判明するのが4月ごろになると聞いております。

JAとしましては、当該鑑定が明らかになるまで同人が人工授精した子牛につきましては市場への上場を禁止する措置を取り、購買者の不信感を招かないよう対応する方針であります。

また、市場運営は、子牛の血統については県家畜改良協会が発行している子牛登録書、母牛については同協会が発行している基本登録書に基づいており、人工授精師が提出する受精証明書も正しいものとの前提でセリを行っているため、DNA不一致の子牛がセリに出されることを当JAが防ぐことは困難でありますので、今後、同様の事態を招かないよう、県を通して授精師の指導と堅確性を求めてまいります。

今回の事態が生産農家や購買者の皆様に不安を与える結果となったことにつきまして、当家畜市場を運営しているJAおきなわとして深く陳謝するとともに、早期の信頼回復に向けて今後とも沖縄県及び関係団体と連携して取り組んでまいります。

令和2年3月12日
沖縄県農業協同組合
代表理事 理事長 普天間朝重